

# 市の考えを問います

一

般

質

問

第3回定例会の一般質問は9月3日・4日・7日の3日間で行われ、9名の議員により、熱い議論が展開されました。

(※次頁からの質問と答弁は、要約して掲載しています。)

## ～質問議員及び主な質問内容～

### 阿部 孝太郎

- 1 地方創生に関して
- 2 マイナンバー制度に関して

### 小野瀬 忠利

- 1 教育現場の現状について
- 2 公共施設の整備について
- 3 観光事業の推進について

### 平野 和

- 1 高速道路を活かした本市の事業計画
- 2 有害鳥獣対策

### 河野 俊雄

- 1 合併10年の現状と課題
- 2 教育行政の現状と課題

### 宮内 正

- 1 通学道路について
- 2 ハイウェイオアシスについて

### 藤崎 仙一郎

- 1 子育て支援

### 高橋 正信

- 1 空き家対策について
- 2 KDDI跡地利用計画について
- 3 鳥獣対策について
- 4 安全、安心なまちづくりについて
- 5 18歳選挙権法について

### 栗原 繁

- 1 障害者福祉制度のあり方
- 2 地方創生事業の進捗
- 3 公の施設の改廃・再構築

### 小林 久

- 1 魅力ある街づくり

(質問議員の順番は、登壇順です。)

一般質問とは…  
議員が、市行政全般にわたり、執行部に対し、  
執行状況及び将来に対する方針等について質し、  
あるいは報告、説明を求め又は、疑問を質すること  
(制限時間90分)



阿部 孝太郎 議員

## 地方創生に関して

**問** 総合戦略書策定の進捗状況は。

**答** 市長 市民100人委員会と行方市行政改革推進委員会が判定人となる事業レビューで、様々な角度からの議論と市民参画型での事業の見直しを期待しています。

庁内組織、まち・ひと・しごと創生本部では4回の会議を開催し、また、中堅若手職員から成るワーキングチームを設置して、事業シート等の作成に取り組み、市民100人委員会にも参画しています。

**問** 人口ビジョンに関して、どのような展望をもっているのか。

**答** 市長 従来の縦割りの議論ではなく、情報共有を図りながら、一つの施策で複数の効果が発揮できるように、部局間をまたいだ横串の議論により計画策定します。

**答** 教育長 進学等で市外に出て

も、将来は地元に戻ってくる、そのような気持ちを育んでいきたいと考えており、その土台として、児童・生徒に対し、郷土愛の充実を図っていきます。

**問** 第一次産業に対する支援策はどのようなものか。

**答** 経済部長 農業は基幹産業であり、新規就農者への支援、担い手の育成、6次産業化の推進等を主要な施策としています。漁業においては、地場水産物の情報を広く発信し、学校給食での食育にも取り組んでいくところです。

## マイナンバー制度に関して

**問** 新制度への対応、市民への周知活動は。

**答** 市長 条例の一部を改正するとともに、研修会等を実施し、職員の意識向上を図りながら、セキュリティ対策を進めます。

**答** 総務部長 市報10月号では特集を組んで、個人・法人向けのPRを行っていきます。



小野瀬 忠利 議員

## 教育現場の現状について

**問** 子ども達は安定した学校生活が送られているか。いじめ、不登校の状況は。教員の教育、指導、支援に関しては。放課後児童クラブの現状は。

**答** 市長 学校を学習の場、放課後児童クラブを家庭生活の一部と捉え、大事な居場所と考えています。

**答** 教育長 児童・生徒に学校生活アンケート、個別面談、相談ポストを実施しています。家庭訪問、保護者会等でも情報を得たり、啓発を行っています。生徒指導連絡会議により情報の共有化を行っています。また、教員一人一人が目標を決めて達成状況や取り組み状況を評価し、指導力の向上と組織の一員としての自覚を高めることに努めています。

## 公共施設の整備について

**答** 市長 更新、統廃合、長寿命化を計画的に行い、財政負担の軽減、平準化を図るとともに、適切な配置を目指す行方市公共施設等総合管理計画の策定に取り組んでいます。学校跡地については、小・中学校跡地等利活用実施計画に基づき有効な利活用を進めていきます。

**答** 市長公室長 公共施設の相互利用について、石岡市、茨城町、小美玉市、行方市の4市町で共同利用に関する勉強会を発足し検討していきます。

## 観光事業の推進について

**答** 経済部長 先導的官民連携事業を取り入れ市内観光施設が民間資本やノウハウを活用できるか調査を実施しています。また、若い人達の柔軟な思考を取り入れ地域資源の再発見、共有、活用を目指していきます。

**答** 市長公室長 14市町村と県で水郷筑波サイクリング環境整備事業推進協議会を設置し(仮)ナショナルサイクルートの認定を目指しています。



平野 和 議員

### 高速道路を活かした 本市の事業計画

**問** 高速道路を活かした本市の事業計画について、首都圏からのアクセス向上をどの様にとらえているか。

**答** 市長 高速道路の整備により、本市の交通アクセス等が整備促進され、産業の振興や交流人口の増加が期待されます。高速道路のインターチェンジが近いということは産業系の企業誘致においては大きな誘因になるもので、この利便性の高い交通アクセスを最大限に活用できるよう努めていきます。

また、本市の南東部に「なめがたファーマーズヴィレッジ」が10月末にオープンの予定であり、これは地域産業や観光の振興にも大きく寄与するもので、市内の観光資源と交通アクセスを連携させた

交流人口の増加や諸事業の新しい展開ができる基盤が整うものと考えており、今後の市の各種計画に反映させていきます。

### 有害鳥獣対策

**問** 有害鳥獣対策に関して、市内に於ける電気柵の使用状況は。

**答** 経済部長 小規模なところでやっている人はいるかも知れませんが、電気柵に関しては法的な規制が直接的にはなく、私どもでは残念ながら電気柵の使用実績について把握しておりません。

**問** ある程度、行政でも使用状況を把握し正しい使い方をされる様、行政指導も必要になってくるのでは。

**答** 経済部長 これからは当然、電気柵を使用する人も出てくると想定し、それに対応する指導、対応を検討していきたいと考えています。



河野 俊雄 議員

### 合併の必要性の検証

**答** 市長 市町村合併は究極の行政改革と言われており、合併の効果として人件費と公債費で約9億円の減額が図られましたが、自治体としての生き残りをかけ健全な行財政運営を図りながら、さらなる安心・安全なまちづくりを進めていきます。

### 新市建設計画の進捗状況

**答** 市長公室長 新市建設計画での合併特例債の活用は、平成27年度末で約70億円、平成28年度から平成37年度まで約95億円を活用できるような計画となっています。

### 次の10年への課題

**答** 市長 第2次総合計画及びまち・ひと・しごと総合戦略計画を

一体的に策定しているところであり、現在進めている地方創生において課題を抽出し、特色を活かしたより実効性のある総合戦略にしていきます。

### 地方教育行政改正への対応

**答** 教育長 制度改革で教育委員長と教育長が一本化され、教育委員会の運営全般にわたり教育長の職務となりました。いじめ等への対応については、総合教育会議の開催、状況を調査する調査委員会、支援対応にあたるコーディネーターの選任など、実効性のある体制づくりに努めています。

### 行方市の教育行政の方向

**答** 教育長 第1に学校の歴史や伝統の位置づけ、第2に一人ひとりの子どもに寄り添った学校・学級経営の実践、第3に進んで学び確かな学力を身につける、第4にたくましさの育成、この4点を共通課題として取り組んでいます。





宮内 正 議員

### 通学道路について

**問** 麻生中学校の県道水戸神栖線側の通学道路の整備の進捗はどうなっているか。

**答** 市長 スクールバス運行のための道路の拡幅及び、徒歩、自転車での通学の安全確保のための歩道設置など、整備を進めているところです。

**答** 建設部長 国道側1.5キロメートルの改良工事が完了しました。残る県道側1.3キロメートルの整備を進めています。用地の取得は相続手続きがなされていない、境界が未確定、用地協力に反対などありますが、約3割の用地を取得しています。

現状においては、整備可能などから工事着手を目指し、用地取得が困難な場合は歩道設置の工事のみとするなど計画の見直しも必要であると考えています。中学

校付近の谷状になっている箇所はカーブである上に勾配も急で通行に危険が伴う状況なので盛土工事を検討しています。用地取得は完了しています。

### ハイウェイオアシスについて

**問** 東関東自動車道水戸線潮来鉾田間の高速道路建設着工に伴い、ハイウェイオアシスの構想はどのように考えているのか。

**答** 市長 麻生、北浦にインターチェンジの設置が予定されています。市内適地にサービスエリアやパーキングエリアと公園、あるいは地域振興施設などを一体的に整備するハイウェイオアシスが具体化できるよう国・県に働きかけています。実現すれば地域の特産物の販売やPR地域の方々と本市を訪れた方々の交流など、人、物の好循環をもたらす、地域活性化に大きな役割を果たすものと考えます。

**答** 市長公室長 今後、国・県にパーキングエリアなどを要望していきながら前向きに検討します。



藤崎 仙一郎 議員

### 子育て支援

**問** 保護者が仕事などの都合で看病ができないとき、子どもたちの健康回復と病状に合わせた保育、家庭と変わらないケアができるような子育て事業が究極の子育て支援ではないかと考える。

病児・病後児保育を行っている施設とその対象者を働きながら子育てしている保護者にどのように伝えているのか。

**答** 市長 子どもは健康なときはもとより、病気のときは一層身体的にも精神的にもケアが必要で、す。家庭の就労形態と病気の子どもも安全安心を図るためにも、病児・病後児保育事業を充実させていかなければなりません。事業を行うには、受け入れ条件もありますので、園とも協議をしながら受

け入れ態勢を整えていきたいと考えています。

**問** 放課後児童クラブの利用状況は。

**答** 保健福祉部長 放課後児童クラブが5ヶ所、降園後は麻生幼稚園、玉造幼稚園の2ヶ所で実施しています。登録者数は、放課後児童クラブ452名、市内小学校全体27%となっております。土曜日は玉造1ヶ所で実施しています。土曜日の放課後児童クラブについては、玉造のみでこれまで実施してきました。今後指導員の雇用の関係もございいますが、場所の選定については、土曜日キッズをどこで実施するかを再度検討させていただきたいと思っています。







高橋 正信 議員

### 空き家対策について

**問** 特措法の全面施行を受け、実態調査への取り組みは。

**答** 市長 空き家等がもたらす問題を解消するには、建築、住宅、景観、まちづくり、税務、総務、防災、環境、水道、商工等の関係課が連携して、空き家等の対策に対応できる連携体制を構築し推進していきます。

**答** 総務部長 空き家等に関する相談窓口を設置し、所有者等に限らず空き家等の周辺市民からさまざまなご相談や苦情等に対応していきます。空き家等の利活用については、空き地、空き家バンクとも連携しながら進めていきます。

**問** 特措法を踏まえて、空き家条例の制定を進めていけないものか。

**答** 市長 財産権の問題等も踏まえ、28年度に予算措置しています。

ので、前段の段階で研究をし条例化に適するか判断し、進めていきたいと思っています。

### KDDI跡地利用計画について

**問** 検討委員会において、利活用策についての具体的な検討事項は見られるか。

**答** 総務部長 民間事業者より当該跡地の一部を利用する太陽光発電事業の提案を受けて、本年7月に検討委員会を開催してきました。結果として当初の土地取得目的との違いや里山保全の優先と相反する等の意見が出され、市の対応としては委員会の意見を尊重し、事業者からの提案をお断りしたところ です。

### 安全、安心なまちづくりに ついて

**問** 老々介護世帯の共倒れを防ぐためにも、緊急通報システムの設置はできないものか。

**答** 保健福祉部長 議員ご指摘の緊急通報システムをこれからは、老々介護世帯にも拡大していくような検討をしていきたいと考えます。



栗原 繁 議員

### 障害者にかかわる 支援制度の実情と課題

**答** 市長 地域に住む全ての人々が、お互いの多様性を認め合い、地域社会で生活し参加できる取り組みを進めています。また障害のある方が、意欲を持ち自分らしく生き生きと地域で暮らしていけるよう、福祉施設利用者の一般就労への移行を見据えた取り組みや、施設入所者にあつては、地域生活への移行を目標としたサービス事業の充実を図っていきます。

障害児に対しては、早期から適切な療育を行うことが、障害の軽減と健全育成の面で重要です。保護者に対して、安心して療育ができるようにするための支援の充実も欠かせません。幼児期から学齢期、あるいは成人に至るまで、行政各分野の連携を強化し、切れ目なく一貫性のある支援が行える仕組みづくりを推進していきます。

障害者支援制度は、国の法令や計画に基づき実施しているところですが、住民に一番身近な行政窓口である市として、障害児・障害者の方々の声をよく聞き、よりよい福祉サービスの提供に努めます。

**答** 保健福祉部長 課題は、施設入所者から在宅への移行促進や、就労継続支援事業所から一般就労への移行者の増加を上げています。施設から在宅への移行には、それぞれの段階での必要なサービス事業所の整備が必要です。また一般就労へ移行するためには、企業理解を促す取り組みや、移行後の定着支援の取り組みを促進していきたいと考えています。

障害者の方に必要なサービスを切れ目なく提供するとともに、保護者の不安を取り除くためにも、各部署での取り組みの連携が必要です。行政だけでなく、学校・医療機関・サービス事業所等の連携を推進し、適切に情報提供ができるような体制づくりを進めたいと考えています。



小林 久 議員

### 魅力ある街づくり

**問** ふるさと住民票の導入の考えは。

**答** 市長 人口減少の進む自治体はどうやってファンづくりや交流人口の増加をつくっていくという点では、いいきっかけになります。本市のまち・ひと・しごと総合戦略の目標値として、皆様と検討していく価値はあると思っています。

**問** 行方市名刺の新デザインは考えているか。

**答** 副市長 名刺は、相手に自分の情報だけでなく行方市の情報も伝える重要なツールです。ある意味、本市の印象、イメージを左右するものと思っています。本市のPR、アピールしたいことを適時名刺に盛り込んでおり、現在のデ

ザインでも柔軟に対応できていると考えています。市の顔であるという名刺の重要性を認識し、知名度向上や魅力が伝わるよう、より効果的な名刺づくりに努めます。

**問** 誇れる教育方針と課題は。

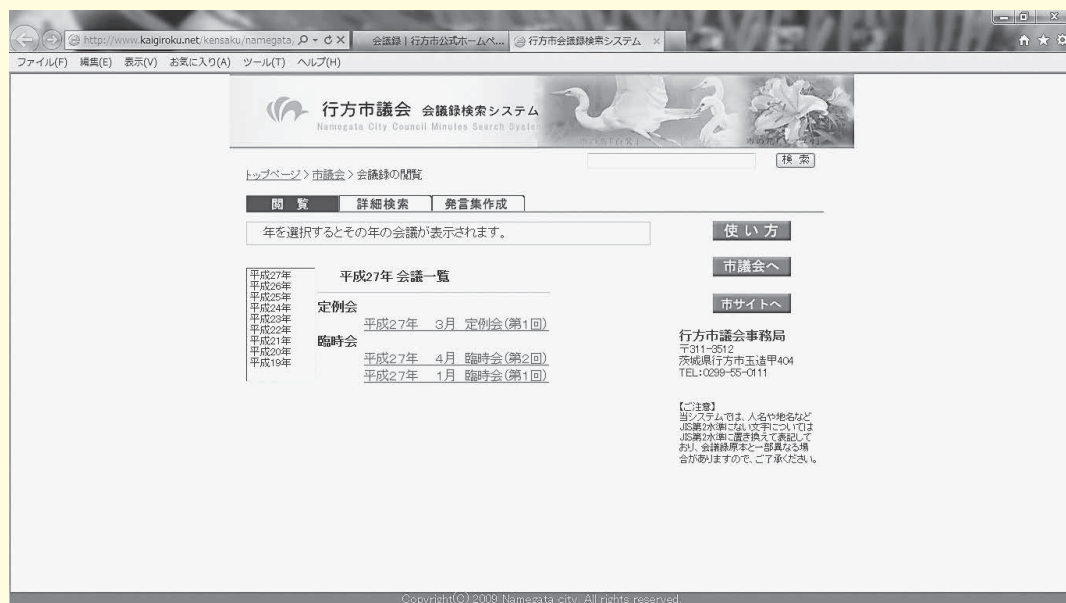
**答** 教育長 他市町村に先駆け全国的に注目される学校の統廃合が来々4月開校の北浦統合小学校をもって、完了します。特に整備面において充実が図られたことは、大変誇れるものと考えています。

小・中連携に公立幼稚園を加え、地域間、学校間の連携を強化し、間断のない教育の実現を図っていくことが大きな課題であると考えています。

**問** 気力ある職務遂行のための努力はされているか。

**答** 総務部長 今後も定員純減や人件費削減により人員が減少する中、職員一人一人の能力向上は必須です。平成28年度から、人事評価制度を本格導入することとなります。

## 会議録(文字)はインターネットでご覧いただけます。



行方市公式ホームページから市議会のページへアクセスしてください。「会議録」をクリックすると、「会議録検索システム（外部リンク）」にジャンプし、会議録を閲覧することができます。会議録は随時更新しています。